

ダイカスト新報

ダイカストロボットシステムの有力メーカーの三明機工(本社・静岡市清水区、久保田和雄社長)は、10月初旬をメドに現地法人を設立し、中国市場に本格進出する。これまで同社は、ダイカストマシンメーカーから受注したロボットシステムを日系の中国拠点に納入する、いわゆる「間接販売」に留まっていたが、今後は、直接ローカルダイカスターにもアプローチし市場を開拓する。すでに同社は、有力ローカルダイカスターで知られる上海亜徳林から大型機用に2システムを受注、6月中旬に納入する。この受注が同社の中国での現地生産を決断させた。

三明機工、ロボットシステムで

中国に本格進出

亜徳林での大口受注を機に



久保田和雄社長

三明機工は、上海亜徳林有色金属(上海市青浦区、沈林根董事長総経理)が現在建設をすすめている蘇州新工場の敷地内建屋(2000平方メートル)を借り受け、現地生産する。今回受注の2システムは、日本で製作し6月中旬に据え付けを完了させる。

新工場の規模は、敷地面積16万8000平方メートル、建屋面積10万4000平方メートル。ダイカストマシン

は、大型機8台、中小型機45台の計53台。この53台のうち37台は新台を導入する。37台のうち大型機8台の内訳は、3000型機2台(ビエーラー)、2000型機2台(同)、1650型機2台(東芝)、1250型機2台(同)。中小型機29台の内訳は、ビエ

ーラー製が500型2台、660型3台、500型6台の計11台、東芝製が800型2台、350型2台の計4台、東洋製が350型10台、そして500型4台がLK製。残りの中小型機16台は現工場から移設する。

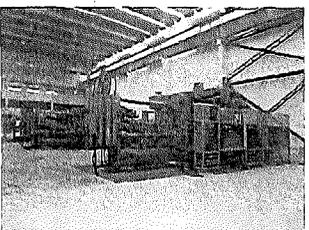
三明機工が受注したシステムは、3000型機と2000型機用各1台、3000型機では、シリンドーブロック(4気筒)、2000型機用でブロックローをそれぞれ生産する。共にフルシステムを納入する。

上海亜徳林は、このころの急激な人件費の高騰に対応する省人化と品質の安定の2つの狙いで、新工場では中小型を含め全面的にロボットを導入する。

三明機工は、新工場における今後の受注を有利に運ぶためにも敷地内に生産拠点を置き、日常的にロボットシステムのスムーズな稼働をサポートすることが有利と考え、亜徳林からの提案を受け入れることにした。

現地法人の社名は、「三明机器人压铸機工有限公司」(仮称)で、資本金は、160万円。董事長は、久保田和雄氏が兼任。技術担当副総経理として、鈴木邦博技術本部次長を

出向させる。ロボットの経験のあるダイカスト周辺機器販売会社との合併にするか独資にするか最終調整中で、その結果を踏まえ、総経理を選任する。



ロボットシステムの据え付けを待つ3000型機

現地法人の社名は、「三明机器人压铸機工有限公司」(仮称)で、資本金は、160万円。董事長は、久保田和雄氏が兼任。技術担当副総経理として、